

📈 マーケット週報 - 2025年5月31日

今週を振り返った為替・経済の最新ニュース

📁 目次

- 1. 🇺🇸 エグゼクティブサマリー
- 2. 📊 為替市場の動向
- 3. 🇯🇵 日本経済
- 4. 🇺🇸 米国経済
- 5. 🇨🇳 中国経済
- 6. 🌐 その他の地域
- 7. 📈 来週の注目ポイント
- 8. 🎯 マーケット見通し

📊 エグゼクティブサマリー

🔥 今週のキーポイント

- **日本株軟調:** 日経平均は37,965円で1.22%安、円高進行で輸出株に売り
- **米国株混合:** S&P500はほぼ横ばい、ナスダックは軟調でハイテク株に売り
- **ドル円調整:** 144.04円で週を終了、約2%の円高進行
- **日本インフレ加速:** 食品価格急騰でCPI3.5%、追加利上げ観測拡大
- **中国株小幅安:** 製造業PMI低迷で上海総合指数は週間0.47%安

📊 主要指標サマリー

指標	今週末値	週間変動	注目度
日経225	37,965.10	▼1.22%	🔴 高
S&P500	5,911.69	▼0.01%	🔴 高
ナスダック	19,113.77	▼0.32%	🔴 高
ダウ平均	42,270.07	▲0.13%	🟡 中
FTSE100	8,772.38	▲0.64%	🟡 中
DAX	23,997.48	▲0.27%	🟡 中
上海総合	3,347.49	▼0.47%	🔴 高

📊 為替市場の動向

📈 主要通貨ペア（5月31日終値）

通貨ペア	終値	週間変動	月間変動	主なポイント
USD/JPY	144.04	▼2.0%	▼3.8%	月末にかけて円高進行
EUR/USD	1.1351	▲0.2%	▲1.8%	堅調な推移継続
GBP/USD	1.3455	▲0.4%	▲1.2%	ポンド底堅さ維持
USD/CHF	0.8221	▼1.1%	▼2.4%	フラン高継続
AUD/USD	0.6434	▼0.1%	▲0.3%	小幅調整
USD/CNY	7.1986	▲0.2%	▼0.8%	人民元は小幅軟化

🔍 今週のハイライト

🇯🇵 日本経済

📈 主要指標

- **コアCPI:** 3.5%（4月、2年ぶり高水準）
- **米価上昇:** 前年比+98.6%
- **政策金利:** 0.5%（次回会合で追加利上げ観測）

🔍 今週のハイライト

日本では食品価格の急騰が経済の重要な課題となっている。4月の東京地区のコア消費者物価指数（除く生鮮食品）は前年同月比3.5%上昇し、2023年1月以来の高い伸び率を記録した。

インフレの要因分析

- **米価の急騰:** 前年同期比で98.6%の上昇
- **その他食品:** チョコレートが31%上昇
- **サービス価格:** 労働コスト上昇により1.3%から1.4%に加速

黒田総裁は7月30-31日の金融政策決定会合で、現在の0.5%から更なる利上げを検討する可能性を示唆している。市場では年末までの追加利上げ観測が高まっており、円相場にも影響を与えている。

日銀が直面するジレンマ

インフレ対策として利上げを急げば経済成長を阻害するリスクがあり、一方で物価上昇を放置すれば家計の購買力がさらに低下する恐れがある。政策当局は慎重なバランス調整を迫られている。

🇺🇸 米国経済

📈 主要指標

- **DXY指数:** 121.73（週間▼1.7%）

- **10年債利回り:** 変動拡大
- **S&P500:** 週間▼2.1%
- **ナスダック:** 週間▼2.8%

🔍 今週のハイライト

今週の米国市場では、トランプ大統領のFED批判が大きな波紋を呼んだ。大統領は金利即時引き下げを要求し、パウエル議長の解任を示唆する発言を繰り返している。

市場への影響

- **株式市場:** 主要3指数がすべて2%以上下落
- **債券市場:** 長期金利の変動が拡大
- **為替市場:** ドル売りが加速

ホワイトハウス経済顧問のハセット氏は、大統領とそのチームがパウエル議長の解任可能な手段を継続検討していると発言。ただし、FED議長は大統領に直接報告する立場にはなく、解任には一定の手続きが必要となる。

経済専門家の見解

「中央銀行の二重の使命である物価安定と完全雇用の促進が、ホワイトハウスが定義する新たな目標に希薄化されれば、政策当局は急激な物価上昇に直面した際に劇的な引き締め政策を実行できなくなる可能性がある」（コーペイ首席市場戦略家カール・シャモッタ氏）

🇨🇳 中国経済

📈 主要指標

- **製造業PMI:** 49.0（4月、収縮域）
- **5月PMI予想:** 49.5（2か月連続収縮見込み）
- **対米関税:** 145%の高税率継続

🔍 今週のハイライト

中国経済では、製造業の活動指標である購買担当者景気指数（PMI）が4月に49.0となり、基準値の50を下回った。5月も49.5程度にとどまる見通しで、2か月連続の収縮が予想されている。

主な要因

- **貿易摩擦の影響:** 米国の高関税（145%）と欧州連合（EU）のダンピング調査
- **内需の低迷:** デフレ懸念と不動産危機の継続
- **輸出依存の脆弱性:** 対外貿易環境の急変への対応力不足

今後の政策対応

中国政府は輸出依存型回復の限界を認識し、昨年後半から国内需要喚起により本格的に取り組み始めている。今後数か月間で追加の金融・財政刺激策が実施される見込みである。

🌐 その他の地域

🇪🇺 欧州

- **EUR/USD:** 1.1351（週間+0.2%、月間高値圏維持）
- **EUR/JPY:** 163.47（ユーロ円も底堅い）
- **対中貿易:** EV関税とタイヤダンピング調査継続

🇬🇧 英国

- **GBP/USD:** 1.3455（週間+0.4%、堅調推移）
- **GBP/JPY:** 193.83（ポンド円も上昇基調）
- **経済指標:** 大きな変動なし

🇨🇭 スイス

- **USD/CHF:** 0.8221（週間▼1.1%、フラン高継続）
- **CHF/JPY:** 175.19（円フランクロスも注目）
- **安全資産:** 地政学リスク回避で買われる

📈 来週の注目ポイント

📅 重要イベントカレンダー

日程	国・地域	イベント	予想値	重要度
6/1（土）	🇨🇳 中国	製造業PMI	49.5	🔴 高
6/3（月）	🇨🇳 中国	Caixin製造業PMI	50.6	🟡 中
6/5（水）	🇺🇸 米国	雇用統計	未定	🔴 高
6/6（木）	🇯🇵 日本	日銀政策委員講演	-	🟡 中

🔍 注目テーマ

1. **FED独立性問題の継続**
2. **日銀追加利上げ観測**
3. **中国経済の底打ち確認**
4. **貿易摩擦の展開**

🎯 マーケット見通し

⚠️ ディスクレーマー

本レポートは情報提供を目的としており、投資勧誘や投資アドバイスを目的としたものではありません。本レポートに記載されている情報は2025年5月31日時点のものであり、その正確性、完全性、または適時性を保証するものではありません。

本レポートの内容に基づいて行われる判断や行動、またはそれにより生じる結果について、当社は一切の責任を負いません。投資判断は投資家ご自身の責任において行ってください。過去の投資実績は将来の投資成果を保証するものではなく、投資には常にリスクが伴います。